

公表: 令和3年12月24日

事業所名 てとり

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点 を踏まえた改善内容 又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○		新型コロナウイルスの予防の観点から、常に2メートルのソーシャルディスタンスをとりながらの室内活動には限界があったが、マスクの着用を徹底し、部屋に分かれての療育活動等を展開したり、パーティション等で場所を仕切ったりしている。	
	②	職員の配置数は適切であるか	○				
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		バリアフリー化はされていないが、トイレや階段に手すりの設置をしている。他に発達特性に応じ、私物を管理しやすしたり、順番を待ちやすいように動線を確保しやすい環境設定をしている。	
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか		○		業務時間内で職員で顔を合わせての日々のミーティングを行うには限界があるため、スマートフォンの連絡媒体等を用いて広く参画しやすい環境設定をしている。	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○				
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○				
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	第三者による外部評価はおこなっていないが、施設運営をしていく中で分からないことや、定期的な巡回指導の際には、エリアマネージャーから評価や助言をいただき、施設運営に役立っている。	
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			月に一度行っている施設内研修の他、外部で実施される研修会や勉強会等に参加している職員もいる。	
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○				
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			①基本的な生活習慣②身体機能③言語認知④社会性⑤心理・情緒の領域に分かれたツールを用い、多面的にアセスメントしている。	
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○				
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○				
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			プログラムを立案をし、各職員に電子媒体を通して一日の活動プログラムを共有をしたり、その結果がどうであったのかを意見交換をおこなっている。	
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○				
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○				

	⑩	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			支援経過記録を書く中でその日の振り返りが自然とおこなわれている。		
	⑪	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○					
	⑫	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○					
	⑬	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	○					
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	⑭	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○					
	⑮	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			送迎時だけではなく、利用児が持っている時間割を確認させてもらったり、学校での生徒指導上に必要な情報に関しては、担任宛てに手紙や電話連絡をし共有を図っている。		
	⑯	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○			現在では医療的ケアの必要な利用児はいないが、過去に在籍していた時は、保護者を通じて情報共有を図っていた。	
	⑰	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○				卒園した保育園に現在も通っている利用児がいる際は、保育園に在籍していた頃の育ち等を情報収集することはできている。	
	⑱	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		○			ここ数年で高等学校の教育課程を修了し、事業所の利用を終了する児がいなかったが、過去にあった事例ではこれまでの支援計画書をファイリングしたものを家庭に渡し、次のサービス事業所に渡してもらい、切れ目のない支援ができるようにした。	
	⑲	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○				新型コロナウイルスの影響により、研修会の開催が減っているが、案内があれば参加することに努めている。	
	⑳	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか		○			保育園や幼稚園等との交流はないが、公園での療育活動をしている際に、地域の子が「参加したい」と申し出た際は、積極的に集団遊びに参加させ、交流の機会を図っている。	
	㉑	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか		○			地域の子ども部会に参加していたが、新型コロナウイルスの影響で定期的な参加が難しかった。	
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○				利用児についての共通理解を図るため、送迎時や連絡ノート、手紙等で状況を伝えている。また、必要に応じて保護者との個別面談を設けて、家庭と施設で共通認識をもった療育活動の展開を大切にしている。	
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○				臨床心理士・公認心理師の資格を持つ職員が、保護者自身の対応力や育児ストレスを低減できるような支援をおこなっている。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○					
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			時間の許す限り、当該利用児が利用日でなくても、電話や家庭訪問、個別面談等で相談に応じ、必要な支援を共に考えている。		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○			新型コロナウイルスの影響により、今年度も保護者会の開催は控えている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○					
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○				月一回「てとり通信」を発行している。また、年間行事計画を年度初めに配布し、行事がある際にはお知らせプリントや、連絡媒体を通して必要なものを事前に呼びかけている。	
	35	個人情報に十分注意しているか	○					
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○				口頭だけではなく、連絡ノートやSMSで記録として残るような工夫をしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○			招待はしていないが、高齢者施設の行事に参加したり、地域での公園遊びの際は地域の子が希望する際に積極的に遊びに参加させている。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○					
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○					
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○					
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○				自傷や他害がある利用児には、身体拘束という言葉を使わず、「タイムアウトができるように職員と抱っこやスキンシップを図りながら別室に促す」等と記載している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○					
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○						

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。